

## 圏外のアンテナ

[さらば外反母趾]の巻

今でもたまに「コピーライターってどんな仕事？」などと聞かれることがある。

そんな時は、「呼ばれたら行く。芸者さんみたいな仕事よ」と、答える。あながちウソではない。

わたしがフリーになった20数年前は、広告会社から電話で呼び出されると、いつもオジサン数人が、会議室という名のお座敷で、雁首（がんくび）揃えて待ち構えていた。

紅一点といえば、まだ聞こえはいいが、せめて舐められないように！と、背の低いわたしは、ヒールの高い靴ばかり履いていた。

足の親指の異変に気付いたのは、10年程前だったか。痛みに耐えかね、専門の病院に駆け込むと、病名は外反母趾（ぼし）。ポコッと外に飛び出した親指の付け根は治りませんと、特注の中敷きを処方された。

その中敷きをハイヒールに詰め込みながら、我慢するしかないわけねと、すっかりあきらめモード…。

ところが、昨年ランニングを開始したのをきっかけに、仕事用の靴をローヒールに変えた。さらに、気功を習うと、思いがけず足の指が息を吹き返し始めた。

靴の中で、常にキュッと縮こまり、かじかんでいた5指が、1本ずつ自由に動かせるようになったのだ。

さらにある日のこと。思い付いて、乗っていた自転車のペダルに土踏まずを押し付けてみると、まさかの「立ちこぎ」ができた！（って超私的な話だが、誰もがいとも簡単にやってのける「立ちこぎ」が、わたしはできなくなっていた。）

専門医からさじを投げられた外反母趾。だが、靴の中で、ドレミ～と指でエア・ピアノを弾きながら、「ひょっとしたら、このまま治っちゃうんじゃない？」

外反母趾は、キャリアガールの勲章だという人もいる。だが、そ知らぬ顔して返上したい。誠にありがたくない勲章である。

=2017年12月22日掲載=



オフィス街のドラッグストアには、外反母趾対策グッズがより取りみどり